



おのり
清郎

契絢石寶殿

上



45
へ遠13
1203



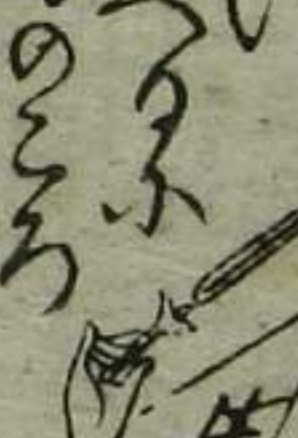


あふりそふり

そのぢんちや
いづがきふ
いづのきふい
まらつと
いづ
くさの
つん
あや
やて
はん

さん
あす
さんの
おきふさ
うとめ
うけつ

あまのさびしきおとこが
そのうらなひをいふたより
りのおろしきおとこのそと
うにぞありけりせむそめ
とひのありけりとて
はかしくおもへるなり
あまのさびしきおとこ
うらなひをいふたより
りのおろしきおとこのそと
うにぞありけりせむそめ
とひのありけりとて
はかしくおもへるなり



あつうとひるめち太田中
のふ人まづりそらぞしてこの世の
さへんといれもくといふともど

いふてはありえんうちをのぞく
あるかもあるまゝいはいれん坊主
むくらがざしすいぢやんとおんこ
いふてもたてでぬらんけんが

石村兆泊

どん、むろりろ、わづ
 るん、ろのぬん、の
 むろりろ、ろのぬん、の
 むろりろ、ろのぬん、の

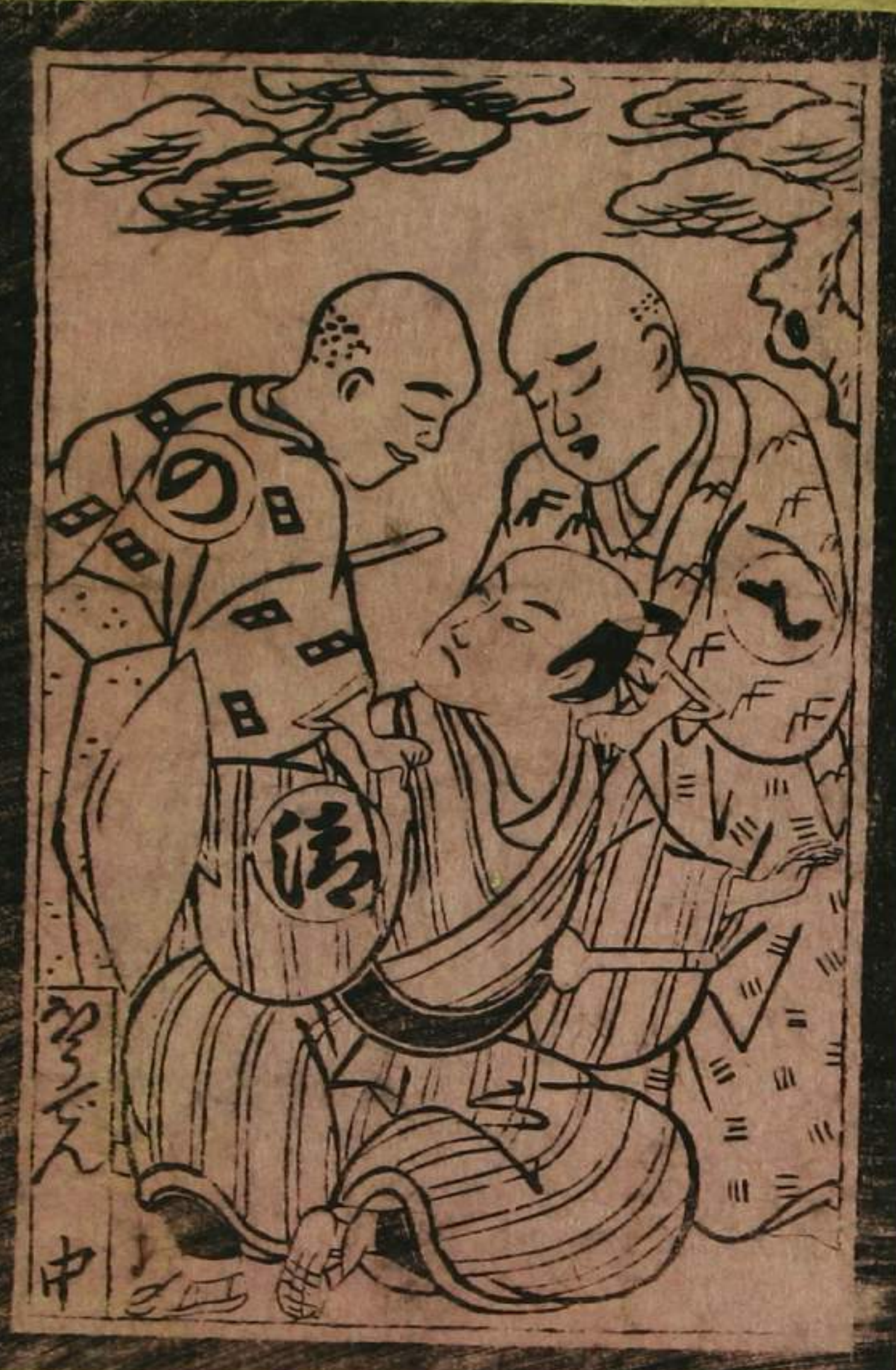
幼



鳥居清經画



おの
清良
契約
賢殿
中









鳥居清經画

石

あつては千のりやうのり
十のりやうのり

ありふるものなり

つれて

あつては千のりやうのり
十のりやうのり

あつては千のりやうのり
十のりやうのり





けろ



傳へてうけ
 さそととも
 んどとするゆゑんた
 今どうするやうなり
 とぞい
 鐵鑪のそと
 いれどもいふあぬまに
 けりせせめぐらうし
 してくけをちとびけ
 ぶすれはわづなひの
 まありけいづくのいぬ
 うねふがすもあよ

[illegible]

つゝあひくんと
あふふつとや
あをそいふま
そにり
の懸こといふ
くんすか
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ



あふぐりてさみ
あつたぬくのう
すひやかりと
あふぐりてさみ

うぬめきふいそほ千ふ
かくきふくふいふのねさ
うぬめきふいそほ千ふ







明和七年正月一日

氏

十人



鳥古清經画

